

大阪府立成城高等学校 定時制の課程学校協議会（平成 28 年第 1 回）記録

（日時）平成 28 年 6 月 13 日（月） 16:30～18:30

（場所）大阪府立成城高等学校 多目的室

（出席者）

〔学校協議会委員〕川崎友嗣、桶谷千晶、安川直志、田中紹亮、畑井みどり、〔欠席〕渡辺一雄

〔学校関係者〕富田准校長、雑賀教頭、川内首席、木戸教務部長、野村生活指導部長、小西教諭

（協議会記録）

1 准校長あいさつ

2 学校協議会の役割と運営について

3 学校協議会会長の選出 川崎 友嗣 氏を委員の互選により会長に選出

4 協議

① 学校概要について

（富田）職員数・生徒状況・学校経営方針・進路状況・退学・懲戒等・出欠統計の説明

- ・ 教職員の平均年齢が 47 歳から 40 歳になった。初任者が 3 名、新卒の期限付講師も増えた。学校の教育力の向上と経験の浅い教員の育成に重点的に取り組む。
- ・ 生徒数は 100 名で、1 学年は例年 2～3 クラス展開をしているが、今年度は 1 クラス。人間関係づくりが苦手な生徒が増えているので、単学級でのデメリットを心配している。
- ・ 昨年度の退学者数は 21 名で、H26 年度の 56 名から大幅に減少。遅刻数も減少している。学校に満足していることで出席率が良いことが原因のひとつと考えている。
- ・ 今年度は、4 月の出欠率がとても良く 9 割ある。これは本校をめざした生徒が入学してきていることと、現在のところ人間関係づくりが上手くいっているからだ考える。

（委員）退学について、学年でその数に違いはあるか。生徒の様子はどうなのか。

（木戸）退学は 1 年生と 4 年生に多い。1 年生は 14 単位未満取得の場合に留年となり、進級できずやめてしまう生徒がいる。4 年生では 6 年間で卒業が出来ずにやめていく生徒である。

（野村）3 年前の教務内規の改定によって、2, 3 年では 1 単位以上を取得すれば進級なので、2, 3 年での留年が少ないことも理由と考える。

（委員）今年は、2, 3 年生の出席率も良いことが分かる。学校が落ち着いているのだろう。

（木戸）入学生は少なくなったが、はじめから定時制を希望している生徒が増えたからだと思う。

② 平成 28 年度学校経営計画等について

（富田）中期的目標の説明

- ・ 「ICT を活用した魅力ある授業づくり」に関しては、各教室に電子黒板が導入されており、iPad を利用している教員もいる。若手教員の講師で活用事例研修を考えている。
- ・ 生徒支援に関しては「居場所づくり」「承認行為」を進めるため、教育相談活動の充実と校内検定制度等による表彰を実施していく。
- ・ 授業力向上のために授業公開週間と研究授業を 6 月と 12 月に行い、天理大学と大阪大学の教授が来校する。また給食の廃止に伴い、食育指導の HR や活動を年 2 回実施する予定である。

(委員) 電子黒板を用いた際の生徒の様子はどうか？

(野村) 視覚的に訴えることができるので、生徒の評価も高い。準備が大変なのが課題。

(委員) 大学の授業ではパワーポイント活用が普通で、逆に新鮮味がない。何を使うかよりも、コンテンツが重要である。「産業社会と人間」の教材は自分たちで開発しているのか。

(川内) 自分たちで用意しているものがほとんど。毎年、生徒に合わせて作り変えて使用している。

(委員) 生徒の人間関係づくりや人権教育はどうなのか。

(木戸) 外国から転校生がいる。先週、人権教育を実施し、生徒の前で話をしてもらった。日本語を懸命に話す姿に他の生徒がとても共感したようで、感想文がとてもあたたかいものだった。みな前を向いて熱心話を聞いていて、その状況に我々も驚いた。

③ 教科書採択について

(雑賀) 採択教科書と採択理由等を説明。

(委員全員) 採択方針と教科書については、一覧のとおりで承認。

④ 学校教育自己診断のアンケートについて

(委員) 生徒用で一部が実態把握になっているが、具体的な学校や先生の様子について聞くとよい。

(委員) 保護者用でも学校に対する意識に関するものに質問事項に答えるのが難しい個所があると思う。

(委員) 変えるときは体系的に変えるべきだと思う。経営計画等とも関連付けて変更していくべき。

(委員) 質問項目が①先生の評価 ②学校の評価 ③自分の生活の評価 の3つに分けられ、それらが混在しているために分かりにくくなっている。継続で検討する必要もあるが整理していくと良いと思う。

(事務局) 次回に修正案をお示しします。

5 授業見学

1 A「国語総合」(宮崎教諭)の授業を見学

6 閉会 会長及び准校長からのあいさつ

大阪府立成城高等学校 定時制の課程学校協議会（平成 28 年第 2 回）記録

（日時）平成 28 年 11 月 18 日（金） 17:00～19:00

（場所）大阪府立成城高等学校 多目的室

（出席者）

〔学校協議会委員〕川崎友嗣、桶谷千晶、畑井みどり 〔欠席〕安川直志、田中紹亮、渡辺一雄

〔学校関係者〕富田准校長、雑賀教頭、川内首席、野村生活指導部長、宮崎教諭、小松教諭

（協議会記録）

1 会長あいさつ

准校長あいさつ

2 学校の状況報告

6 月以降の学校の様子（体育祭・文化祭・修学旅行等）を PowerPoint で説明

3 協議(1)

① 生徒の状況について

（富田）生徒の出席状況・生徒指導・進路状況についての説明

- ・10 月末に 1 名が退学、現在は 99 名が在籍。
- ・出席率は昨年比 10% 上昇。しかし、遅刻・早退数の増加の課題がある。
- ・就労率は 64%。学年の進行に伴って就労率が上昇。卒業後の進路決定状況に結びつくで、担任、進路指導部を通してのアルバイト斡旋等に取り組みたい。

（委員）長欠の生徒は何名いるか。また、それら生徒の状況について。

（野村）全欠は 6 名、不登校の生徒は 10 人程。理由は仕事が忙しいことや怠惰など。

（委員）巷では「ブラックバイト」について懸念されているが、貴校の生徒ではどうか。

（野村）先輩からの紹介で断りづらいなどの状況もあるようだ。先日、総合労働事務所の職員による労働についての研修を実施した。今後も、計画的に生徒に学習の機会を設定していく。

② 学校経営計画の進捗状況について

（富田）学校経営計画の進捗状況についての説明

- ・「基礎的・基本的な学習の確実な定着」では、外部連携による研修や講演などを実施。
- ・教員の平均年齢が 41 歳と低下したので、指導力向上のため、積極的に研修を実施。
- ・「ICT を活用した魅力ある授業づくり」では、電子黒板の利用は進んでいる。
- ・学校紹介の学校案内パンフレットを刷新し、本校の魅力を伝えていく。

（委員）電子黒板の活用はどのような頻度でおこなわれているか。

（野村）毎回利用する教員もいる、半数以上の教員が利用。一方で教材作成の大変さがある。

（委員）授業中のスマホについて。どのような指導や対策をしているのか。

（野村）授業時にはスマホをしまうように指導している。指導の足並みを揃えるように徹底している。

（委員）大学ではスマホ活用の実態もある。出欠確認でスマホを利用したり、学生と教員の双方向の講義を展開している例もある。全面禁止の方針も良いが、自制できるようになることが必要。今後は指導だけでなく、有効的な活用方法や利用モラル指導を考えてみるのもよい。

（富田）現在のカリキュラムは 10 年前に策定したもので、学校の状況や実態と乖離している面がある。

今後に向けてカリキュラムの見直しを検討している。学習指導要領の改定に伴いアクティブラーニング（AL）に取り組むことによって生徒の主体的な学習活動に働きかけるような授業づくりをおこないたい。

（委員）ALの導入は良いことだが、その手段・方法が目的化しないように留意していただきたい。

（委員）AL自体が過大評価されていると感じる。学校経営目標に数値を設定する必要もあるが、数値目標を基とした導入ではなく、生徒の個性や状況に応じた導入をお願いしたい。

（委員）新入学生の確保として、どのようなことを行っているか。

（雑賀）学校見学会に数名が来校している。近隣の中学校への新しいパンフの発送もした。今後も、学校説明会を通して生徒・保護者に対し学校の魅力を理解してもらえるようにする。

② 第1回授業アンケート結果について

（委員）大学でも授業アンケートは行われているが、学生の出席状況に応じて結果の分析が行われている。出席状況の悪い学生は講義に対してネガティブな評価をする傾向がある。高校でも出席状況の良い悪いで分けた結果を提示してみてもどうか。

（委員）結果の数字のみが一人歩きしないような配慮すべき。アンケートを通して、生徒自らの学習態度を見つめなおすアンケートになったらよい。利用については工夫してもらいたい。

④ 学校教育自己診断（案）について

（富田）昨年度の回答項目を案のとおりの変更を考えている。12月の実施予定。

（委員）「アルバイト等の仕事をしている」について。「アルバイト等の仕事に力を入れている。（楽しい。）」のように、学校生活と仕事等とのバランスを調べることのほうが意味あると考える。

（委員）「悩みを相談し親身になって応じてくれる先生が多い」について。全ての教員がカウンセリングマインドを持つことは大切だが、定時制の場合では、一人でも親身に相談できる教員がいたら登校できるから、「悩みを相談し親身になって応じてくれる先生がいる」を調べるほうが実態にあっている。

（富田）委員のご意見を参考にし、生徒の実態を把握できる自己診断の回答項目にする。

⑤ 保護者からの意見聴取について

（会長）意見はありませんでした。

4 次回の開催時期について

（会長）2月中旬に実施します。

5 閉会 会長あいさつ、准校長あいさつ

大阪府立成城高等学校定時制の課程学校協議会（平成28年第3回）記録

（日時）平成29年2月9日(木)17:00～19:00

（場所）大阪府立成城高等学校多目的室

（出席者）

〔学校協議会委員〕桶谷千晶、田中紹亮、畑井みどり、安川直志、渡邊一雄、〔欠席〕川崎友嗣

〔学校関係者〕富田准校長、雑賀教頭、川内首席、野村生活指導部長、辻進路指導主事、五島教諭

（協議会記録）

1 准校長あいさつ

2 学校の状況報告

11月以降の学校の様子を説明

3 協議

①第2回授業アンケート結果について

（雑賀）授業アンケートの結果について説明

- ・年2回実施。今回のアンケートの方がよい結果となった。教員が振り返りシート等を活用したりして授業力の向上に努めた結果や、生徒が学校に慣れてきたことが伺える。

②学校教育自己診断について

（雑賀）学校教育自己診断について説明

- ・生徒の回答率は65%。前回の学校協議会の意見を踏まえて質問内容を変更し実施。

（富田）生徒と保護者の学校満足度は非常に高い。学校行事や生徒指導の取組み等が評価されている。

（委員）「授業の教科科目は工夫されており自分の学びたいものがある」の肯定率が70%は高い結果と判断する。生徒たちは意欲的に授業に参加し、授業に概ね満足していると評価してよい。

（委員）学校満足度の高さが生徒の頑張りにつながっている。先生方の丁寧な生徒との関わりが伺える。

（委員）ICTを活用した授業とは具体的にどのようなものか。

（富田）教員用のiPadを5台購入。全教室に電子黒板、ホワイトボードの設備も整っている。ICT機器の活用で生徒を引きつける授業ができていると評価している。

（辻）数学ではタブレットと電子黒板を利用し、視覚的支援で生徒の理解を補助している。

（野村）英語では、実際に外国人が話す英語を聞かせるなど、教材としての材料は豊富にある。電子黒板を使用すると生徒の参加意欲が増している。Active learningにつなぐ授業ができている。

（委員）「産業社会と人間」という授業ではどのような内容を学習するのか。

（川内）1年生で週2時間、1年間を通してキャリア教育を実施。さらに2年生で週2時間、3年生で週1時間の総合的な学習の時間でも引き続き進路について考える授業を実施している。

（複数の委員）生徒が格段に落ち着いてきていることを感じる。

（委員）「成城高校に入ってよかったと思う」の質問に「まったくあてはまらない」と回答している生徒が0%ということは、第一志望を定時制高校にする生徒が少ない状況で、本当にすごいことである。

（富田）アンケートでは全体的に肯定率が高い結果が出ているが、不登校傾向の生徒がいることを受け止め、これからも一人ひとりの生徒の対応をしていき、学校をよくしていきたい。

（辻）進路状況では、9月に始まる就職の選考までに生徒たちに準備をさせることやコミュニケーションが苦手な生徒への面接指導が困難になっており内定率が下がった。

- (委員) キャリア教育では、時間をかけて職業観・勤労観を身につけることが重要である。
- (委員) 仕事でやりたいことを見つけるだけでなく、働くことにはやりがいがあると伝える。

③平成 28 年度学校経営計画の評価案について

- (富田) 本年度の取組内容及び自己評価案について説明
- (委員) (評価案について、全員了承)

④平成 29 年度学校経営計画案について

- (富田) 学校経営計画 中期的目標の昨年度からの変更について説明
- ・生徒数は減少していくが本校の総合学科のメリットや特色を大切にしていきたい。
 - ・授業力の向上と ICT 機器の活用と併せて、**Active learning** について取り組んでいく。
 - ・生徒間の人間関係づくりや養護教諭志望学生による保健室サポーターの取組みを実施する。
- (委員) 生徒と教員の関係づくりはできており評価できる。学校が居場所になるためには、生徒同士の横のつながりや先輩後輩との関わりもとても大切なことである。
- (委員) **Active learning** に取り組む際にペアやグループでの活動もある。難しいだろうが、教員の仕掛けで生徒同士をつなげることが今後の生徒の成長につながるので取り組んで欲しい。
- (委員) 生徒たちも友だちがほしいと思っている。しかし生徒たちにとって人に話しかけることは、非常にハードルが高い場合が多い。教員やサポーターを相手に話す練習をすることは生徒たちにとって必要なことである。保健室サポーターの取組みは良い。(複数の委員から)
- (委員) (計画案について、全員了承)

⑤保護者からの意見聴取について

- (富田) 意見はありませんでした。

4 閉会 准校長からのあいさつ

【参考】

成城高等学校定時制の課程 平成 28 年度 学校協議会委員

名簿

会長	川崎 友嗣	関西大学社会学部副学部長、教授
	桶谷 千晶	大阪市こども相談センターカウンセラー、本校スクールカウンセラー
	田中 紹亮	大阪市立東洋中学校校長
	畑井みどり	本校 P T A 役員
	安川 直志	株式会社 N C S A 代表取締役
	渡邊 一雄	城東区薬剤師会会長、本校薬剤師